

## 2 (平塚地域) プレゼン発表

【平塚地域 (城島地区) の課題 (概要)】

【課題解決方法】

【プレゼン資料】 / 【説明者の発言】

## 2 (平塚地域) プレゼン発表

※詳細は末項「(別表) 個別事業一覧」参照願います。

【平塚地域 (城島地区) の課題 (概要)】

- 高齢化、少子化
- 耕作放棄地の増加

⇒何年後かには地域を維持できないのではないかと不安感があり、高齢者がいきいきと参画できる仕組みづくりが必要

【課題解決方法】

⇒地域の強みを活かして  
関係人口・交流人口を増やし、地域づくりを行う。



令和4年度 地域の支え合い仕組みづくり事業  
中間報告会（令和4年11月8日）

高齢者活躍の仕組みづくり支援分野

# 地域資源活用による交流 型体験の里づくり事業

城島活力創造推進協議会

## 第1 概要

### (1) 事業全体目的

・地域活動団体、地元の大学・高校や民間企業と連携し、**地域資源を活用した交流・体験活動と高齢者がいきいき参画できる仕組みづくりを通し、地域運営の持続性を向上**していく

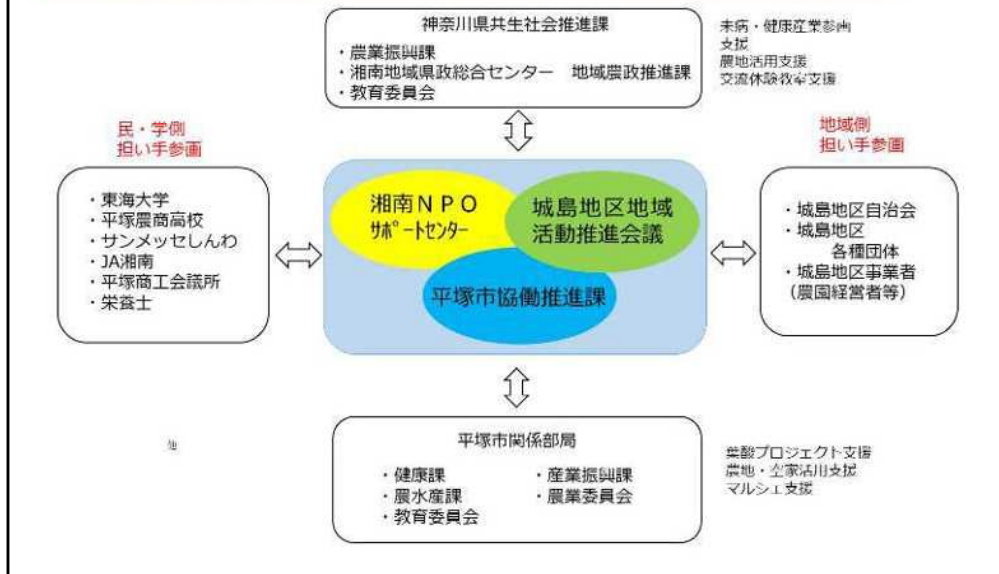
### (2) 事業全体内容



- 私どもは、城島活力創造推進会議として、平塚市、城島地区地域活動推進会議、湘南NPOサポートセンターの3者で取り組んでいます。
- 今回の事業の目的ですが、地域資源を活用した交流体験の活動と、高齢者が生き生き参画できる仕組みづくり、その仕組みづくりの先には、地域の運営の持続性、自走化を目指しています。
- 1年目は、いろいろなアイデアを出して、2年目に試行プロジェクトを実施、今年度については、プロジェクトの定着と学び交流の場を展開していこうと取り組んでいます。

# 第1 概要

## (3) 協業/協働体制



- 関係の各機関としては、平塚の地域側では東海大学、平塚農商高校、JA湘南などと連携しています。市では健康課、産業振興課、農水産課、教育委員会と連携しながら進め、言ってみれば農のある暮らしというものを「城島スタイル」というような名前ですべて定着できればとスタートしました。

## 第1 概要

### (4) 事業全体内容

ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた  
身近に農・学びがある暮らし・地域づくり



高齢者はじめ多世代が交流する  
持続性ある地域運営  
「城島スタイル」の発信



## 第2 進捗状況

### (1) 令和2年度計画と実績/成果

#### ■ 計画と実績

- 事業内容共有化のための広報（10月～）
  - ・活動報告（公民館だより）4回
- 課題・目標確認のための「生活・暮らしアンケート」（12月実施）
  - ・地域住民 940世帯 回収率62% ・事業所 18社
- 地域再発見のための「地域散策/アンケート」（11・12月）
  - ・城所/小鍋島地区（11/29） ・大島/下島地区（12/6）
- アイデア企画のための「WS（ワークショップ）」（12月～）
- 市・学校・民間連携構築に向けた「関係機関協議」（11月～）

#### ● 成果

- 地域づくりの目標の共有
  - ・「高齢者が元気で暮せる」、子どもの声が聞こえる」
- 資源・環境活用の取り組みの重要性の確認
  - ・「富士山や大山を望む景観、自然環境」、「休耕田・空き施設等を活用した農業体験、地産物の販売」、「子どもたちの学び・遊びの展開」
- 試行プロジェクト・アイデアリストの作成
  - ・市推進の「葉酸プロジェクト」との連携

- 令和2年度は、まずこの事業の内容を地域の方々に分かっていただく、それから地域のこれからの姿をどう方向性を見据えたいか、こうしたことを生活・暮らしアンケートとして、地域の全世帯、940世帯にアンケートを行いまして、6割ぐらい回収し、また、地域再発見のために地域散策といったことも行いながら取り組んできました。
- そういう中で、地域の資源としては、富士山や山を望む景観、一方で休耕田など空き施設をうまく使うこと、また、子供たちは少なくはなっていますが、子供たちの遊びや学びの場をうまく展開できないかを考えることとしました。
- 市としては、葉酸プロジェクト、野菜に含まれている葉酸をうまく活用する取組を行おうと、まずアイデアを整理させていただきました。

## 第2 進捗状況

### (2) 令和3年度計画と実績/成果

#### ① 令和3年度計画（スケジュール）



- 昨年度は、その中でいくつかプロジェクトを試行するという事で、まずは4月にキックオフの「きじマルシェ」を開催しました。  
以降、米、野菜づくり体験、葉酸たっぷりの料理教室、マルシェも定期でやろう、地域めぐりを皆で再発見しよう、そして情報発信、こうしたことを企画しました。



## 第2 進捗状況

### ②令和3年度の実績/成果

#### <■実績>

##### ■きじマルシェ

4/24 (土) 田植え前のれんげたんぼ

- ・特産野菜販売
- ・事業紹介パ<sup>レ</sup>ル/米づくりマ<sup>シ</sup>展示
- ・ふれあいコーナ

\*参加者 約200名 スタッフ 約60名

##### ■米・野菜づくり体験教室

5/15 (土) ~11/20 (土) 6回

- ・田植え/稲刈り
- ・野菜植付/収穫
- ・収穫祭での意見交換

\*参加者 21家族 スタッフ延約120名

\*参加費 1万円/家族

\*三密対策として時間帯/チーム区分しながら実施

#### <■成果>

##### ●高齢者の参画・協力、活躍機会の拡大

→農産物販売、田植え・稲刈り指導、新米試食料理等、高齢者自らが企画運営に関わることで高齢者の活躍の機会の創出と実感

##### ●地域外交流による城島らしさの再確認

→景観、特産物を活かしながら“学び”と“遊び”を体験できる“わがまち”の魅力再確認と取り組み意欲の向上



- 令和3年度の主要なものとしては、キジマルシェ、こちらは田植え前のれんげの田んぼで、いろいろな事業の紹介、野菜の販売、農機具の展示など、日頃触れることが少ないものを、こういう事業をスタートしたということで開催しました。
- 併せて試行的に米・野菜作り体験教室を、地元のライスセンター、生産組合と協働のもとで6回ほど開催し、21家族の方に3密の中で参加していただくことで、れんげの田んぼで、大学生にモニュメントを作っていたいたり、田植えなど行う中で、地域の外との交流で、城島という地域らしさを地元の人が再発見する機会にもなったかと思えます。



## 第2 進捗状況

### <■実績>

#### ■自然・歴史探索体験

－感染防止策を踏まえ  
地元スタッフ中心の試行・準備－

#### ・自然農法（みそづくり）

7/18（日）参加者 18名

10/17（日）参加者 10名

11/23（火）参加者 10名

#### ・弁天池再生（生き物観察に向けて）

8/8（日）参加者 15名

#### ・ダイヤモンド富士/星空観察

9/23（木）参加者 10名

12/25（日）参加者 16名

#### ・城島新川秋景色散策

10/10（日）参加者 23名

#### \*健康薬膳料理教室

1/17（月）参加予定16名

→感染防止対策のため中止

### <●成果>

#### ●試行PJを通じた多様な外部協力の兆候

→地元スタッフ（高齢者が主体）、地元参加者中心の試行であったが、関係者の人脈やHPや地域メディアでの活動PRを通じ、地域外の協力者（専門家、元教師、栄養士等）や若い移住者の参画の兆し



- 自然、歴史探検として、自然農法、弁天池という使われなくなった湧水のある池の再生、景観の良い富士山のダイヤモンド富士を見るといったことを行い、かなり人づてにいろいろな外部の協力者が増えていきつつあるという状況がありました。

## 第2 進捗状況

### <■実績>

#### ■情報発信

- ・HP「城島へようこそ！」開設
- ・Instagram「KIJIMARCHE」開設
- ・地元メディア放映/掲載  
→きじまるシエ、弁天池再生準備等
- ・事業活動報告（公民館だより）  
→月1回 R4.10現在20回
- ・「広報ひらつか」での収穫祭の紹介

#### ■外部機関連携

- ・東海大卒論テーマ・フィールドとの連携
- ・平塚農高「生徒商業研究」との連携
- ・地元関連組織、移住者/組織との連携  
→湘南ライセナー、介護支援団体  
→草木循環Labo（各種体験企画）

### <●成果>

#### ●大学・高校との研究・演習の連携

- 若者からの視点、今後の交流体験企画のポイントについて新しい知見を地元スタッフと共有
- 学生や生徒たちにとっては、農ある暮らしト地域の持続性や魅力発信の担い手、仕組みづくりの重要性を考えるきっかけと継続的な連携への理解の向上

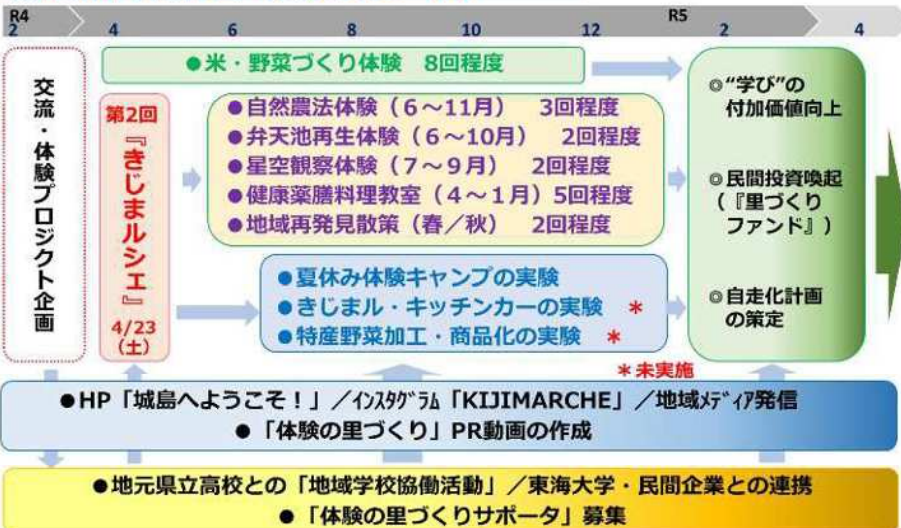


- 情報発信として、ホームページ、Instagramの開設や、地元のメディアで取り上げていただいたり、平塚広報の中で新しい取組として紹介いただいたり、地域の中には毎月1回の活動報告を行いました。
- また、大学との連携では、卒論のフィールドにもしていただきながら、若い人たちからの視点で、どういう体験交流の企画があるか、大学生や高校生たちから見た農ある暮らしの持続性、SDGsにつながる重要性を感じていただきました。

## 第2 進捗状況

### (3) 令和4年度計画と実績/成果

#### ① 令和4年度計画 (スケジュール)



## 第2 進捗状況

### ②令和4年度の実績／成果

#### <■実績>

##### ■第2回きじマルシェ

4/23 (土) 田植え前のれんげたんぼ

- ・特産野菜販売/野菜パンの販売
- ・事業紹介パル/米づくりマシ展示
- ・健康チェック/健康・葉お知らせ
- ・ふれあいコーナー/花モニュメント

\*参加者 約350名 スタッフ 約70名

##### ■第2回 米・野菜づくり体験教室

4/16 (土)～10/15 (土) 7回

→うち雨のため2回中止

- ・田植え/稲刈り
- ・野菜植付/収穫

\*参加者 22家族 スタッフ延約100名

\*参加費 1万円/家族

#### <●成果>

##### ●「健康」に関連する企業・協力者との連携機会の拡大、PR

- 地域包括ケアセンターの健康チェックや地場野菜を使ったパン販売等、マルシェを通じた健康テーマの関係機関とのつながりが拡大
- 高校生の斬新なインスタ映えるPR



- 今年度については、2回目のマルシェをまた田んぼの中で開催しまして、前年度に企画したものを回数など深度化していこうと取り組み、プラスアルファとして、夏休みのキャンプとしてできないか、キッチンカーなどの形での付加価値化、商品化ということも想定してはと思いましたが、残念ながらこの二つについては、コロナの長期化で取り組むことが現実的には難しい状況になっています。
- きじマルシェについては、今年度は昨年以上に参加者も多く、地域包括ケアセンターの方に協力いただいて健康チェックをしたり、触れ合いコーナーで、高校生たちに地場の花を生かしながら花モニュメントに取り組んでいただいていますし、野菜を使ったパンの販売など、健康に関連する民間企業とも連携が取れるような場になってきたかと思っています。



## 第2 進捗状況

### <■実績>

#### ■自然・歴史探身体験

- ・自然農法（みそづくり）  
7/23（土） 参加者 18名  
10/14（金） 参加者 10名
- ・弁天池再生（生き物観察）  
7/9（日） 参加者 15名
- ・ダイアモンド富士/星空観察  
9/19（月祝） 参加予定 10名  
→台風のため中止
- ・鎌倉殿の足跡巡り散策  
5/21（土） 参加者 30名
- ・健康薬膳料理教室  
6/24（金） 参加者 16名
- ・里まなびデイキャンプ  
8/27（土） 参加者 26名  
→竹細工と竹飯盒

### <●成果>

#### ●親子で参加する体験学習プログラムとしての実施運営体制固め

→昨年度の試行を通じた地域外の協力者（専門家、元教師、栄養士等）に加え、体験学習を推進する「おおすみネット（地域教育カネ트워크協議会）」との協力・共催の立ち上がり



- 自然、歴史体験については、昨年できなかったところをプラスアルファ、薬膳料理とかデイキャンプも行いまして、デイキャンプでは、竹を使ったお皿や飯盒を作ったり、里山の体験などを、地域の教育カネ트워크という体験学習を行うコミュニティスクールに近い組織との連携の中で進めていったということがあります。

## 第2 進捗状況

### (4)これまでの取組みを通じた課題と地域の変化

#### ①課題

##### ▲地域内での活動理解・浸透のさらなる拡大

→公民館だよりに加え、HPやインスタグラム等での活動周知・情報共有に取り組みつつも、コロナ禍長期化により、活動への参加、企画運営への理解の立ち遅れ

##### ▲自主運営を見据えた体制・資金面の整備

→これからの新しいスタイルでの持続的運営、地域経営的企画検討を推進していこうとする次世代の意欲のある人材の参画や資金確保する仕組みがまだ不十分

#### ②地域の変化

##### ●既存地域活動団体との連携の兆し

→体験PJ試行において「公民館事業」との共催や「おおすみネット（地域教育力ネットワーク協議会）」の協力等、小・中学生の参加や親世代が参画しやすい形で実施することで、交流機会を増やす実効性があがると気づき、さらなる連携に取り組んでいこうとする機運の高まり

##### ●地域交流の場としての休耕地、遊休地、空き家等の活用の意義の共有化

→野菜づくり体験での休耕地利用、デイキャンプでの遊休広場利用、移転者の空家リノベーション(まなびサロン化)等、学びの場や交流の場として工夫しながら利用することで地域が動きだすこと、多様な活用の可能性があると土地所有者が気づき、意識も変化

- こうした中での課題と変化ですが、いろいろな活動をしてはいますが、地域への浸透というのは、まだまだもう少しの状況です。
- 体制と資金面については、課題といたしますか、コロナの状況の中で、まだ足固めとしては十分ではないです。
- 一方で、公民館事業や教育力ネットワークの事業ということで、小学生、中学生から親世代、そういった若い世代が参画できる、これが比較的実効性があるのではないかと考えています。  
高齢者ももちろんですが、孫世代が参加することで、高齢者も生き生きすることにつながるというのがかなり見えてきました。
- それから、交流の場として、休耕地、遊休地、空き家などを活用することについても、土地や家屋を持っている方々の意識も、変化してきているのではと感じています。

## 第3 今後の取組み

### (1) 令和4年度11月以降の取組み

#### ①スケジュール

- 11月** 収穫祭 : 米・野菜づくり体験者との交流会 (11/19)  
「みんなでまなぼうさい」 : おおすみネットとの共催の親子防災学習 (11/26)  
「平塚農商高校学校運営協議会」 : 今後の協働活動の協議 (11/10)
- 12月** 冬の星座観察教室 (12/17)
- 1月** 冬の葉膳料理教室  
平塚市関係部局との次年度以降の連携・支援の協議
- 2月** 次年度以降自走化運営体制・活動案の協議  
城島公民館祭り : 東海大学、平塚農商高校との連携・協働活動紹介 (2/25,26)  
第3回きじまるシェ企画開始
- 3月** 令和5年度体験事業計画の作成

**\* 「平塚農商高校学校運営協議会」での地域学校協働活動**

今年度は外部交流（学内・学外含め）に関する制約下・自粛の状況にあり、次年度緩和を見据えた具体的連携内容の協議を中心とする。

14

- 取組の課題も含めて書いていますが、今後については、実は平塚農商高校と地域協働活動を今年度から立ち上げました。  
ただ、コロナの状況で、まだまだ具体的なところがないので、11月10日に具体的な今後の内容を協議します。
- もう一つ重要なのは、平塚市の関係部局と今後についての具体的な連携や支援について協議に至ってないこともありまして、年明けに取り組んでいければと考えています。



### 第3 今後の取組み

#### ②平塚農商高校との「地域学校協働活動」取り組みの方向（案）

- 「きじマルシェ」と「(仮称)農商マルシェ」のコラボ試行
  - 11/19 (土) 収穫祭、2/25 (土) 26 (日) 公民館祭り時での農商高活動紹介
  - 課題：外部交流緩和後に向け、次年度スケジュールの協議
- 休耕地の体験農地、演習フィールドとしての活用・管理の実験協力
  - 学校デュアル授業化の受け皿としてのハウス野菜・花卉栽培等の体験の可能性
  - 課題：次年度試行に向けた学校との協議
- 葉酸豊富な地元野菜等を使った特産品の試作、レシピの開発協力
  - 規格外野菜を活かした商品試作、健康薬膳料理教室、マルシェでの実演紹介の可能性
  - 課題：許認可上の制約
- 新たな地域魅力発見と体験プログラムのコンテンツ企画・作成・PRの協力
  - 地域歩きをもとに「きじマルシェ」「デイキャンプ」等、企画側への参画
  - 課題：ワークショップの実施時期
- 「きじマルシェ」や各種体験プログラムの参加者意見分析の協力
  - 上記①～④の中で検討

- 平塚農商との取組ということで、マルシェのコラボ、体験農地や演習フィールド、デュアル事業化への対応、新しいレシピの開発、体験プログラムのコンテンツの企画など、若い人の視点で実験的に展開ができればと考えています。

## 第3 今後の取組み

### ③ 自走化に向けた実施体制の拡充

#### ■ 企画運営の実働・サポート体制の拡充

##### ● 「地元活動団体代表主導」体制から「次世代担い手参働」体制へ

- \* 事務局企画運営スタッフ → おおすみネット、新規事業実践者、地元後継者
- \* 事務局拠点 → ふれあいの里（地区福祉村）施設等と一体となった事務局

##### ● 「サポーターズ制度」の構築

- \* 実働の協力者登録（サポーター）
- \* 活動支援の基金化（サポートファンド）

#### ■ 外部機関との連携強化

##### → 田園地域づくり（ガーデンタウン）先進モデル化への戦略的シナリオづくり

##### ● 市内外の関連活動団体、組織との連携

- \* 観光協会、JA等との連携
- \* まち活拠点「きちきち」との連携による発信

##### ● 平塚市関連各課との連携継続（持続性確保のための支援体制）

- \* 調整区域の休耕地・遊休地の活用 → 農水産課、農業委員会、まちづくり政策課
- \* 体験学習の場としての拡充 → 社会教育課、健康課
- \* 収益事業への展開 → 産業振興課

16

- 具体的な実施体制は、これまで地域活動の団体の方々、例えば自治会や社会福祉協議会の方々を中心に動かしてきたのですが、やはり実効性ということでは次の担い手の方に、より多く参加していただきたいということで、そういったメンバーの参画、また、活動拠点も今は公民館を中心に行っていますが、もう少し地域のいろいろな施設と連携して事務局機能を持っていくのはどうかと考えています。
- また、サポーターズ制度の構築ということで、協力していただくサポーター、サポートファンド、わかりやすく言うとヒト・カネの部分の体制を整えていければということです。
- 外部との連携強化では、城島スタイルということでスタートしましたが、よくよく考えると、神奈川県西部の田園地域ガーデンタウンというような形で、少し幅広い連携の中でモデル化ということを考えていければと思います。  
具体的には、調整区域が多いので、そこでの活用とか、より体験の場としての拡充、収益事業の展開、こういったものを考えていければということです。

### 第3 今後の取組み

#### (2) 令和5年度以降の展望

##### ●めざす方向

社会教育・生涯学習の一環として、小中学校、高校、大学ならびに地元民間企業との協力体制のもとで、「**交流型体験の里づくり事業**」から「**多世代交流のガーデンタウン（いきいき田園地域）づくり**」をめざす →

##### ■組織体制

○「城島地区地域活動推進会議」の「里づくり事業実行委員会」を母体に外部機関と連携する**自主運営組織への移行と将来的なNPO法人化**を見据える

+

##### ■財源基盤

○地元農産物加工・商品化、農園レストラン化等、**6次化と販路拡大**をめざす  
○周辺地域との連携による交流・体験ツアーの**周遊化、通年化による収入増**をめざす

+

+

##### ■土地・施設の持続的活用方策

○貴重な田園環境を維持しつつ、農地の休耕化、迷惑施設への転用を抑制し、交流や学びの機会・場としても活用していけるよう**土地・施設の新たな活用制度化、規制緩和に向けた関係者協議**に取り組む

学びと交流を通して支えあいながら地域運営していく

17

- 目指す方向としては、今申し上げたことを進めるために、組織化としてはやはり、土地を活用するとか、いろいろなことも含めて、将来的にはNPO化を見据えたいです。
- 財源については、参加費だけの収入というのはかなり厳しいので、農商高校、民間と一緒にになった6次化、ツアー化、体験ツアー化といったことを考えていきたいです。
- また、やはりヒト、カネ、土地がすごく重要だと感じており、圏央道周辺で、土地利用がもうすでに大きく変化している中で、休耕地を地域のために交流の場として使うためには、活用の制度や規制緩和といったことを、関係機関と一緒にチャレンジしていければと考えています。

おわりに

共創社会における身近に農・学びがある暮らし・地域づくり

高齢者はじめ多世代が交流する持続性ある地域運営  
高齢者の経験とスキルを活かす“健康”と“生きがい”の創出  
**「城島スタイル」の発信**

かながわガーデンエリア・モデルに向けて



- 城島スタイルをかながわガーデンエリアのモデルにということで、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

## 3 (平塚地域) プレゼン後の 質疑応答

- (1) 参加者について
- (2) 土地利用について
- (3) 自走化について

### 3 (平塚地域) プレゼン後の質疑応答

#### (1) 参加者について

Q1

地域外からの参加者の割合は。また、参加者は固定されているのか。

A1

- ・一番大きい活動は、米・野菜づくり体験教室であるが、ほとんどが地域外からの参加である。地域内にもアナウンスはしているが、自分の家でやっているという理由で参加者は少ない。
- ・きじまるシェについては、地域内1/3、地域外2/3の参加割合となっている。地域内は、小学校にも連絡することにより、児童の両親、祖父母がパンの販売や健康チェック等にスタッフとして参加してくれているが、事業運営への参画には、一歩も二歩も階段が上がっていかなくてはならない状況である。
- ・事業運営への参画に向けては、裾野を広げること、キーになる方に入っていくことが必要であり、親世代の地域教育力ネットワーク協議会、青少年指導員など、新しい形で地域学習を支えていただく方に入っていきたいと考えている。

### 3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

#### (2) 土地利用について

Q2

どのようなことが今、課題として挙がっているのか。

A2

- ・後継者の方が少なくなる、施設園芸でハウスなどを展開していた年代の方々がもう続けていけなくなるということで、現地は休耕田が多く、残念な景観にもなっている。  
そういったところに、需要のあるトラック、物流関係の事業者などが短期間に進出する展開となっている。
- ・この事業の使い方では、当然それほど収入にならないため、土地所有者に厚意で使わせていただくこととなり、限界があると感じている。
- ・持続性のための活用、暫定的な活動に対して、規制をもう少し緩和していただきたい。

### 3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

#### (3) 自走化について

Q3-1

農産物の6次化や販路拡大、ツアーなどいろいろな事業を展開する中で、収入は確保できるのか。平塚市などからの補助のほか、期待できる財源はないのか。

A3-1

- ・地域側では、米・野菜づくり体験の参加料以外にプラスアルファで販売する形にはしているが、現状ではそれほどの額にはならないので、マルシェ等を展開するのが一つ大きな課題である。
- ・市では、地域課題を解決するために取り組む団体に対して補助金を交付する制度がある。この取組のうち、対象となる部分については、補助を充てたい。



### 3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

#### (3) 自走化について

Q3-2

介護保険制度における一般介護予防事業、生活支援体制整備事業あるいは重層的支援体制整備事業などで支援は可能だと考えるが、現時点で担当課は参画しない中、そうした事業の活用は考えているのか。

例として、長崎県の佐々町が地域包括で、厚労省が高齢者の農福連携で、いろいろな事業をやっている。

A3-2

- ・新しい連携の取組や支援制度について、勉強しているところである。
- ・農福連携については、佐々町の例のように平塚市においても別途動いている実態があり、そうした制度に対して、地域の理解が大きい割合を占めること、また、市の部局についてもプラスアルファということもあろうかと思うので、今後、市の関係各課と、いろいろな制度を紹介してもらいながら、一緒に考えていきたい。

### 3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

#### (3) 自走化について

Q3-3

自走化に当たり、核となる事業、資金源となる事業は何だと考えているか。

A3-3

- ・今年、デイキャンプにチャレンジしたが、その近くにある弁天池を再生して、湧水の辺りの生態系の再現、蛍の里にすることまで考えている。それを活用して、夏休みに泊まりのキャンプができればと思う。
- ・空き家をリノベーションし、サロンのようなところも作っていただいている方がいるので、2泊3日のキャンプでいろいろなことを丸ごと体験できるという形をとっていきたい。里の方のお米などを食べる方と、里山の方のデイキャンプのようなことを組み合わせたいと考えている。今すぐになるかどうかは分からなく、これを資料にピンポイントで書くというところまではまだ至っていないが、そう考えている。



### 3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

#### (3) 自走化について

Q3-4

（Q3-3を受けて）企業協賛という方法もあるが、今は考えていないのか。

A3-4

- ・ぜひ実施したいと考えている。市内には、製造業関係、三共など健康関係、不二家など食品関係といったいろいろな素地、ポテンシャルはあると思っている。
- ・そういう方々にサポーターファンドに御協力いただけるよう、市と協力して動いていきたいと考えている。